

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)関東いすゞ自動車(株)浦和支店	階数	地上2F
建設地	さいたま市南区内谷二丁目1533番1の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域、第一種住居地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2020年9月2日
敷地面積	11,224 m ²	作成者	(株)島村工業一級建築士事務所
建築面積	4,702 m ²	確認日	2020年9月2日
延床面積	5,577 m ²	確認者	(株)島村工業一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 86%

③ 上記+②以外の: 86%

④ 上記+: 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。	天井高を高く設定し、リフレッシュスペースの確保、自動販売機を設置するなど心理的・快適性に配慮している。 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。夜間照明の設置など防犯性に配慮している。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	自動水栓や、節水型便器などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	ライフサイクルCO ₂ 排出率を86%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)関東いすゞ自動車磯浦和支店改築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.33	-	-	3.0
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.8	0.25	-	-	2.8
3.1 昼光利用						2.4	0.30	-	-	
1 昼光率						2.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						2.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		居室面積の1/30以上の開閉可能な窓を確保				4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.4
1 機能性						3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースが9㎡/人以上				4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高:3.0m				5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースは執務スペースの1%以上、自動販売機の設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		WCは清掃しやすい内装材、風除室の1次扉、2次扉は1m以上確保				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		排水は公共下水道に接続、トイレにSKを設置、清掃用電源の設置				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		工:壁)15年(EPG)、事:壁)15年(ビニルクロス)				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		浴室排気ダクトに塩ビライニングスパイラルダクトを採用				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・汚水排水:B、冷媒管:C、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		器具総数の過半に節水型器具を採用、可能な限り配管の系統を区分				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	工:階高8.59m、事:階高4.4m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.11	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		工: 5000N/m ² 、事: 2900N/m ²	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井点検口、ケーブルラック、OAフロア等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井点検口、ケーブルラック、OAフロア等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.74	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.78	3.2	0.50	-	-	3.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		主要水栓の過半に節水コマ、自動水栓などに加えて、節水型便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		事務室床:ビニル床材	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=86%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリスト、「広告物照明の扱い」の一部を満たす	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	